

らいいプラス

# 葛藤越えて心通わす

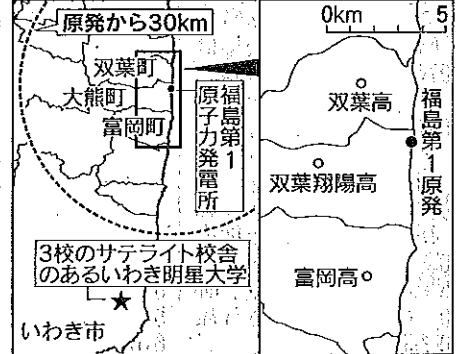
東京電力福島第1原子力発電所事故の警戒区域にある福島県立双葉、双葉翔陽、富岡の3高校は、同県いわき市のいわき明星大学に置いた「サテライト校」で授業を続けている。3校同居の校舎は狭く、生徒数の減少にも悩む。それでも転校するかどうかの葛藤を経て3校を母校に選んだ生徒たちは、心を通わせながら勉強や部活動に励んでいる。

## 復興のチヤイム

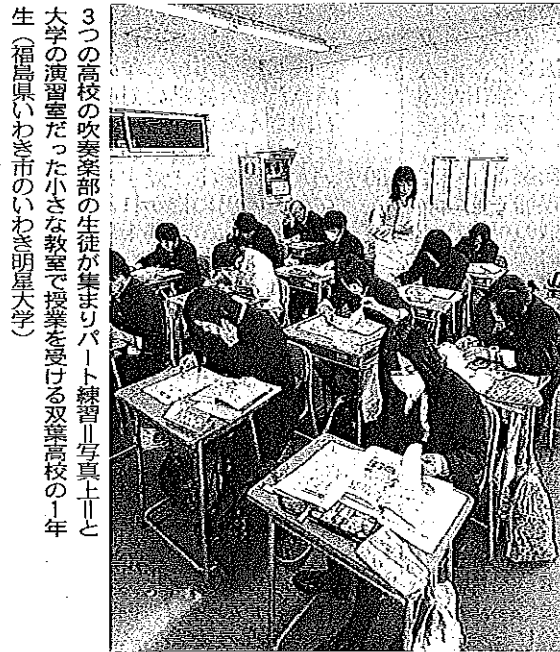
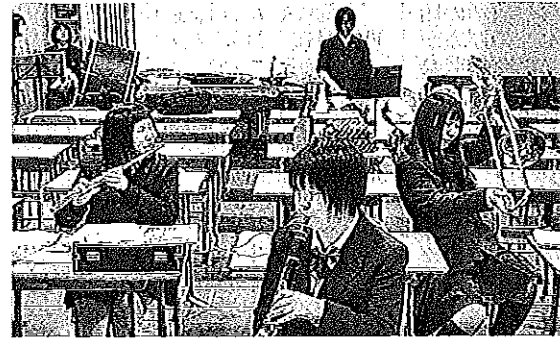
「さあ音合わせしてみよう。1、2、3、ハイ。」  
11月1日の午後、富岡高の志賀友加里教諭(27)が拍子を刻むと、大学の実験室を改装した音楽室内にフルートやクラリネットの澄んだ音色が響き始めた。  
真剣な表情で楽譜に向かうのは双葉高と富岡高の生徒たち。行事でこの日の練習には参加できなかった双葉翔陽高の生徒を含む計7人で、3校合同の吹奏楽部として活動している。

に分かれていた双葉高と双葉翔陽高のサテライト校は、いわき明星大に集約され、富岡高も3つあるコースのうち2つが集まった。  
事故後の生徒流出で各校とも吹奏楽部の部員は減少。音楽室は一つしかない。「一緒にやったら？」との志賀教諭らの呼びかけに応えた生徒たちだったが打ち解けるには時間がかかった。練習方法の違いや、3校の定期テストの期間が異なるため、全員での練習がなかなかできなかったことが理由だ。

だが6月ごろには他校の生徒とパート練習ができるようになり、7月の県吹奏楽コンクールに晴れて出場を果たした。双葉高2年の夏目日向子さん(17)は「今は学校の壁は感じない」と笑顔。3校の統括部長を務める富岡高2年、及川真由さん(16)は「休日に一緒に遊ぶなど、同じ学校のように仲よくなることを心がけている」と話す。



## 福島3高校、いわきでサテライト校



3つの高校の吹奏楽部の生徒が集まりパート練習(写真上)と大学の演習室だった小さな教室で授業を受ける双葉高校の1年生(福島県いわき市)のいわき明星大生(福島県いわき市)のいわき明星大生

## 授業環境は逆風続く

要な模擬面接の場所も十分ない。  
双葉翔陽高は普通科と職業学科の長所を併せ持つ総合高校で、教育には実習施設が不可欠。このため約10キロ離れた場所に農場を確保し、生徒はマイクロバスで通う。測量や造園の実習も企業の協力を得て行っているが被服関係の実習は開講できなかった。「今後も科目選択の幅の確保が課題」(渡辺譲治校長)だ。  
生徒の減少にも直面する。1年生は双葉16人、双葉翔陽24人、富岡52人で、双葉、双葉翔陽は40人、富岡は80人の定員を大幅に下回る。双葉高の刈屋俊樹校長(57)は「マンツーマンの指導やいわき明星大との連携授業などをアピールして一人でも多くの生徒を迎えたい」と懸命にいわき市内などの中学校を回る。

お断り「この一冊」は休みました。  
葛藤を乗り越えて在籍していること無縁ではない。双葉高3年の作山麻花さん(17)は今年の春、悩んだ。家族とともに双葉町から移り住んだ郡山市の双葉高サテライト校が解消されることになったからだ。  
いわき明星大のサテライトに通うには家族と離れなくてはならない。原発事故後に一時通った郡山市の高校に戻ることも考えたという作山さん。「双葉高は同じ経験をした友達も多く、互いにわかり合える。残って正解だった」と振り返る。ただ親友が転校していったときには寂しさがこみ上りたという。  
明星大サテライトに在籍する3校の生徒326人の3分の1が親元を離れ、県がいわき市内に用意した旅館から通っている。双葉高の刈屋校長は「現状を疑問視する声は教員の中にもあるが、生徒の学校への思いは強い。一人ひとりを大切にしたい」と話した。

## 解消の見通し立たず

サテライト校は福島第1原発事故の警戒区域などから避難した県立高校の生徒が転校せずに学習を続けられるよう、福島県が避難先の近くに設置した。当初は10校(分校を含む)が27サテライトを開設。昨年5月9日に授業を再開した。  
その後、緊急時避難準備区域の解除で2校が元の校舎に復帰。残る8校について、県は今年度からサテライトを各校原則1カ所に集

約した。例外はスポーツ選手の養成コースがある富岡高で、練習施設が必要のため今も4カ所に分散している。  
県教育委員会は「サテライト校は本来の校舎に戻るまでの臨時の措置」(高校教育課)としている。8校は来年度も新入生を募集することは決まったが、住民帰還の見通しが立たないなか、「臨時の措置」がいつまで続くかは不透明だ。

## 学びのふるさと



女優 国仲 涼子さん

くになか・りょうこ「沖縄県出身。1999年にデビュー。2001年のNHKの連続テレビ小説「ちゅらさん」でヒロインを演じ、ブレイクした。フジテレビ系ドラマ「運命のヒマワリ」に出演中。33歳。  
この方法はデビュー後間もなくNHKの連続テレビ小説「ちゅらさん」のヒロインを演じた時にすでに役立ちました。弟役の山田孝之君とトーク室に並んで座り、長いセリフをノートに

沖縄県で生まれ、高校卒業まで過ごしました。忘れられないのが中学1年の担任だった山里先生です。50代くらいの男性で、国語を教えていました。普段はニコニコ笑っているけど、勉強はしっかりさせる。ちょっと厳しめの先生でした。  
中学に入って最初のテストを迎えた時、暗記しなければいけないことがたくさんあり、どうしようと思っていたら、先生は「教科書を10回読むより、1回でも書いて覚えろ」と言いました。「不思議なもので、自分の書いた文字だと汚くてもきれいで、頭にそのままインプットされる」と教えてくれました。  
ただ、それを実行する子はおまわりらず、私も「本当かな」と半信半疑。「書くのは面倒く

してしまいました。それでも、先生の言葉はずっと心に残っていました。高校2年になって覚えるにくい部分がある

中1の担任の助言、進学後に実感

書き込んで覚えました。ノートを何冊使ったか分からないほどです。最初は緊張でうまく演技できませんでしたが、先生に教

## 長いセリフ、今でも実践

さるようになりました。今も長いセリフは書いて覚え、演技中にセリフを思い出す時は、台本ではなくて自分で書いたノートの字が頭に浮かぶようになりました。まさに先生の言った通りで、書かないと不安になるくらいです。  
先生は「本を読みなさい」ともよく言っていました。上京してから読むようになり、今は月に3、4冊読むこともあります。ミネターや恋愛ものを中心に「この場面が登場人物はどんな顔をしているんだろう」とか想像しながら読むことが楽しく、演技にも役立っています。  
先生に接していた時は気が付かなかったけど、その教えは今、すくすく生きています。長らくお会いしていませんが、「ありが